

#1 実際の霊はキリストのからだの実際である

(サンクス・ギビング特別集会)2019/1/7-1/13

I. ヨハネの文書は、その霊が実際の霊であることを啓示しています:

A. 全宇宙で、真実であるのはただひとり、すなわち三一の神です。三一の神だけが実際です。

B. 神の新約エコノミーの中で、その霊には実際という属性があります:

① 実際は、神の霊のすべてを含む属性です。なぜならそれは、御父、子なるキリスト、すべての神聖な項目と実体を含んでいるからです。

② その霊はすべてを含む実際です。ですから、実際は、その霊の最も素晴らしい属性の一つです。

③ 文脈によれば、ヨハネ 16:13 の「実際」は、三一の神であるすべてと彼が持っているすべてを指しています。

C. 実際の霊は三一の神の実際です。すなわち、彼は三一の神であるすべての実際、彼が成就したすべての実際、彼が到達し獲得したすべての実際です。

D. 実際の霊から離れるなら、私たちは経験の中で、三一の神、あるいは神聖な属性の何をも持つことはできません。三一の神と彼のすべての属性の実際は、実際の霊です。【月】

II. 実際の霊は、私たちがすべての実際へと導きます:

A. 実際の霊の中にあるものだけが、霊的な実際です:

① すべての霊的な事は、実際の霊の中にあってはじめて、真実で、生きており、有機的になることができます。

② 実際の霊は、すべての霊的な事を執行する方です。

B. 実際の霊は信者たちを、三一の神のすべての実際と、すべての神聖な事柄のすべての実際へと導きます。

C. ヨハネ 16:13 で「実際」が指しているのは、御父が持っているもの、御子が持っているもの、その霊が御子から、また御父が持っているものから受けるものです:

① 御父が持っているものは実際であり、御子が持っているものは実際であり、その霊が受けるものも実際です。

② 御父が持っているものは御子のものとなり、御子が持っているものはその霊が受け、その霊が受けるものは私たちに明らかにされます。

③ 御父は御子の中で具体化され、御子はかたちが変わってその霊と成り、その霊は神聖な三一を私たちに臨ませます。【火】

D. その霊を通して、三一の神の実際は私たちの中へと伝達されます。ですから、その霊が私たちに導く実際は、三一の神の実際です。

E. 実際の霊が、この実際を私たちの中へと伝達することによって、私たちが神聖な実際へと導くとき、神聖な実際(手順を経て究極的に完成された三一の神)は、私たちの存在の構成要素となります。

F. 実際の霊(御子の完全な実際化)は私たちが、キリストのすべての実際へと導き、それは彼であるすべて、彼が持っているすべて、彼が到達し獲得したすべてを含んでいます。

G. 実際の霊は私たちが、キリストのからだの実際へと導きます。

III. 三一の神の実際としてのその霊は、キリストのからだの実際でもあります:

A. キリストのからだは召会であり、そのすべての実際は、手順を経て究極的に完成された三一の神の実際の霊です。もし実際の霊がないなら、キリストのからだはなく、召会はありません。【水】

B. キリストのからだの実際は、私たちが多くの面で受け、経験し、享受したその霊です。

C. 実際の霊は手順を経て究極的に完成された三一の神のすべてを、キリストのからだの中で実際とします。

D. すべてに十分な神は、実際の霊として私たちの霊の中に住み、結合されて、一つのミングリングされた霊です。この霊は、キリストのからだに対する、手順を経て究極的に完成された三一の神であるすべての秘訣です。

E. 手順を経て究極的に完成された三一の神が経験したことのすべては、肉体と成ること、十字架、復活を含めて、実際の霊によって実際化され、実際におけるキリストのからだの属性と経験となっています。【木】

F. 私たちは実際の霊を通して実際に触れてはじめて、からだの生活を生かし出すことができます。

IV. 私たちはキリストのからだの実際の中にいようとすれば、実際の霊が私たちの存在の中へと構成される必要があります:

A. 実際の霊は信者たちの中へと入って来て、彼らの内側でキリストの実際となりました。

B. すべてを含むキリストは、三一の神の具体化であり、私たちの内側に住む実際の霊として完全に実際化されています。この内住する実際の霊が、キリストの実際です。

C. キリストのからだの実際の中にいることは、実際の霊が私たちの中へと造り込まれ、私たちの存在の中へと構成されることです。【金】

V. キリストのからだの実際は、「イエスにあるあの実際」です:

A. イエスにあるあの実際とは、実は四福音書に記録されているような、イエスの生涯の真実な状態です。

B. イエスの生活の本質は実際です。

C. エペソ 4:24 にある「あの実際」は、神の人格化です:

① この実際は、イエスの生活において展覧されました。

② イエスの人の生活は、この実際にしたがっていました。すなわち、神ご自身にしたがっていました。

③ 神は彼と共におり、彼は神と一であって神を表現しました。これが、「イエスにあるあの実際」の意味です。

D. 主イエスが地上で生活した方法は、キリストのからだの肢体が今日、生活すべき方法です:

① 私たちの生活の標準は、イエスにあるあの実際に、すなわち主イエスが地上にいた時に生かし出した実際にしたがっていなければなりません。

② 私たちはキリストを学び、彼の中で教えられて、実際の生活をする必要があります。

③ 私たちはキリストのからだの肢体として、イエスにあるあの実際にしたがって、実際の生活、すなわち神を表現する生活をすべきです。

④ イエスにあるあの実際は、彼の多くの肢体の中で複製されるべきです。それは、彼らが団体的にキリストのからだの実際の中で生きるためです。【土】

**Crucial Point ①: からだの生活を実行するために、
日常生活で実際の霊によって偽りを脱ぎ捨てる**

ヨハネ16:13 しかし彼、すなわち実際の霊が来る時、あなたがたをすべての実際へと導く。

エペソ4:4 一つからだ一つ霊、それはあなたがたも、あなたがたの召しの一つ望みの中で召されたようにです。5 一つ主、一つ信仰、一つバプテスマ。6 すべてのものの神また父は一つ、この方はすべての上に、すべてを貫き、すべての中におられるのです。

OL1: キリストのからだは召会であり、そのすべての実際は、手順を経て究極的に完成された三一の神の実際の霊です。もし実際の霊がないなら、キリストのからだはなく、召会はありません。

OL2: 手順を経て究極的に完成された三一の神が経験したことのすべては、肉体と成ること、十字架、復活を含めて、実際の霊によって実際化され、実際におけるキリストのからだの属性と経験となっています。

三一の神が経験したことのすべては、肉体と成ること、十字架、復活を含めて、同じようにこの実際の霊によって実際化され、キリストのからだの実際の経験となっています。…実際の霊が来たとき、彼は三一の神のこれらの経験を、私たちの中で実際とし、私たちの実際の経験としました。このゆえに、私たちは今日、地上で正常な人の生活を行うことができます。…私たちが短気を起こしたり、他の人を責めたり非難したりしないのは、キリストの死が実際の霊を通して、私たちの中で実際化されるからです。さらに、キリストの復活を伴うその霊は、私たちの中で働いて、私たちが人を愛し、赦すことができるようになります。これらはすべて、どのように三一の神ご自身の経験が、召会の中で実際の霊によって実際化されて、召会の実際の経験となるかの例証です。

その霊は内側の本質であり、表現されたキリストのからだの実際です。その霊は、三一の神がキリストのからだにとって何であるかのすべての秘訣です。この霊は今や私たちの再生された霊の中に住んでおり、私たちの霊に結合されて、一つのミングリングされた霊です。ですから、私たちは霊に戻り、私たちの思いを霊に付け、私たちの霊にしたがって歩かなければならないのです。私たちがミングリングされた霊の中に生きるとき、キリストのからだを生かし出し、彼の団体的な表現となることができるようになります。

人は霊的な実際に触れるとき、召会に触れ、彼の行動はからだの行動となって、単独の行動ではありません。仮に、あなたはあることを行わなければならないとします。からだの生活を実行することは、あなたがすべての兄弟姉妹を招いて、それについて話し合い、正しい方法で手続きを踏むということではありません。(人数の多少を問わず)兄弟姉妹と交わってその実際に触れるとき、からだの生活があります。もしあなたが霊的な実際に触れていないなら、全会衆が満場一致で同意しても、肉の意見にすぎず、からだの生活ではありません。霊の実際に触れた者だけが、からだの生活を生かし出すことができます。

適用: 青年在職/大学院生編

実際の霊は、あなたがたをすべての霊的な実際へと導きます。キリストの受肉、人間生活、死、復活、昇天のすべての実際は、実際の霊によってあなたの生活の中

に実際化されます。

エペソ4:25 そういうわけで、偽りを脱ぎ捨て、おのおのその隣人と共に真実を語りなさい。なぜなら、私たちは互いに肢体であるからです。

FN「偽り」: 性質において偽っているあらゆるものを言います。なぜなら、私たちが古い人を脱ぎ捨てた時、性質において偽りのものもすべて脱ぎ捨ててしまったからです。ですから、私たちは真実を、すなわち真実であることを語るのです。

キリストのからだの生活を実行するために、日常生活で「偽りを脱ぎ捨て」、「真実を語」るべきです。いい加減にあるいは習慣的に、何であれ虚偽、嘘に属するものを語ってはいけません。虚偽は古い人に属しています。古い人は、悪意を持った嘘については多少良心の感覚がありますが、そうでなければほとんど良心の感覚がありません。しかしあなたはクリスチャンとして、実際の霊に従って、新しい人の生活をするために、まずあなたの口から習慣的に出てくるあらゆる虚偽を対処して、虚偽を語らないように訓練する必要があります。青年在職者あるいは大学院での研究者として、物事の本質を見極める必要があります。そのためにあなたはまず日常生活であなたの口から出てくる虚偽の言葉、軽い嘘を対処することを訓練してください。実際の霊の中には、古い人を十字架に付けて終わらせる死の効果があります。あなたは日常生活の詳細な事柄であなたの霊を訓練して、実際の霊に触れ、虚偽を対処してください。このために、それが虚偽であることをまず見抜く必要があります。

例えばビジネスの会議において、ある事柄について賛成か反対か聞かれた時、あなたは状況を正しく理解するためにいくつかの質問をすることはできます。しかしその後で賛成か反対かを明確にする必要があります。聖書は次のように言っています、「しかし神は信実です。あなたがたに対する私たちの言は、『しかり』であり、また『否』ではありません(Ⅱコリント1:18)」。この聖書の啓示によれば、あなたは周りの人の顔色や上司の顔色を忖度するのではなく、イエスカノーかを自分の考えとしてはっきり述べるべきです。もちろんあなたに最終的な結論を下す権限がなければ、決定があなたの考えの反対であっても、あなたは従順に従う必要があります。ここでの論点は、自分の考えをはっきり述べることです。周りを考慮して自分の考えをはっきり述べないことは、突き詰めると虚偽を言うことであり、真実を言うことではありません。

このように見ていくと、日本人は文化的に、多くのあいまいなことを語ることで虚偽を習慣的に語っています。このような人は物事の本質を見抜くことは難しいです。ですから日常生活で習慣的に語っているいい加減な言葉が、実は虚偽であることを見抜き、主の御名を呼び、それを語らないように訓練することはとても重要です。

祈り: 「おお主イエスよ、私は習慣的に多くのあいまいな言葉を語ってきました。それは私なりの問題を回避するための処世術でもあったのです。しかし聖書は何であれ虚偽を脱ぎ捨てるように言っています。またこのように習慣的に虚偽を言い、真実を言わないことは、プロジェクトの本質を見失うことにもつながります。主イエスよ、実際の霊によって虚偽を脱ぎ捨て、真実を語るすることができますように。日常生活で日本の文化に従った処世術に頼るのではなく、実際の霊に頼って生きることを訓練できますように。」

Crucial Point ②: 実際の霊に触れて、 イエスにあるあの実際から学ぶ日常生活の詳細

エペソ4:17 こういうわけで、私はこの事を言い、また主の中で証しをします。もはやあなたがたは、異邦人が彼らの思いのむなしさの中を歩くように、歩いてはなりません。18 彼らは、理解することで暗くなり、彼らの中にある無知のゆえに、その心のかたくなさのゆえに、神の命から遠ざけられ、19 感覚を失ってしまい、自分自身を淫蕩にゆだねて、飽くことなくあらゆる不潔を行なっています。20 しかしあなたがたは、そのようにキリストを学んだのではありません。21 もしあなたがたが真に彼に聞き、そして彼の中で、イエスにあるあの実際にしたがって教えられているのであれば、22 あなたがたは、以前の生活様式において、あの欺きの情欲によって腐敗している古い人を、脱ぎ捨ててしまったのです。

23 そして、あなたがたの思いの霊の中で新しくされ、24 また、あの実際の義と聖の中で、神にしたがって創造された、新しい人を着たのです。

OL: 私たちの生活の標準は、イエスにあるあの実際に、すなわち主イエスが地上にいた時に生かし出した実際にしたがっていなければなりません。私たちはキリストを学び、彼の中で教えられて、実際の生活をする必要があります。私たちはキリストのからだの肢体として、イエスにあるあの実際にしたがって、実際の生活、すなわち神を表現する生活をすべきです。

実際にしたがったイエスの生活は、信者の生活の模範です。私たちはこの模範の中で、イエスにあるあの実際としてのキリストを学んできました。これが意味するのは、私たちが福音書に示された実際にしたがって、すなわち、主イエスの生活にしたがってキリストを学んできたということです。この生活は光の輝きです。光の輝きは実際であり、実際は神の表現です。ですから、イエスの生活には実際があります。イエスの生活の本質は実際です。主イエスは地上で生きていたとき、常に実際の中で、神聖な光の輝きの中で、神の表現の中で歩かれました。

新しい人は、あの実際の義と聖の中で創造されました。義とは、神の義なる道にしたがって神と人に対して正しいことであり、聖とは、神の御前で敬虔であり、信心深いことです。義は外側の行為を指していますが、聖は内側の性質を指しています。外側で、新しい人と関係のあるものはすべて義です。内側で、新しい人と関係があるものはすべて聖です。義はおもに人に対してであり、聖はおもに神に対してです。

エペソ4:24でパウロは、新しい人は「あの実際の義と聖の中で、神にしたがって創造された」と言います。この実際は疑いもなく、イエスにあるあの実際です。私たちの生活の標準は、律法にしたがったり、あるいは社会の標準にしたがったりすべきではありません。それは、イエスにあるあの実際に、すなわちイエスが地上にいた時に生かし出された実際にしたがっていなければなりません。ですから、イエスの生活は、今日、召会における私たちの生活でなければなりません。言い換えれば、新しい人の生活は、イエスの生活と全く同じでなければなりません。イエスが地上で生活した方法は、新しい人が今日、生活すべき方法です。

私たちはそのように生きようとするなら、善や悪にしたがって論じるべきではありません。そうではなく、私たちは日常生活のさまざまな面を、イエスにあるあの実際にしたがって考えるべきです。例えば、私たちが買い物をして行こうとしているなら、主イエスが買い物に行っておられるかどうかを尋ねるべきです。一人の新しい人の生活は、イエスの実際の生活でなければなりません。私たちがみな天的で、神聖で、義で、聖で、栄光ある方法で生きるなら、召会の中ですばらしい団体生活を持つでしょう。これが新しい人の団体の生活です。

適用: 新人/中高生/大学生編

エペソ4:26 怒ったとしても、罪を犯してはいけません。日が暮れるまで、憤ったままでいてはなりません。

27 また、悪魔に所を得させてはいけません。

FN26 節「怒った」: 怒ることは罪ではありませんが、罪を犯す可能性があります。私たちは怒りの中に居続けるべきではなく、日が暮れる前に怒りを捨てるべきです。FN27 節「悪魔に所を得させる」: 文脈によれば、怒りの中に居続けるのは、悪魔に所を得させることです。私たちは何事においても、決して彼に所を得させてはなりません。

28 盗みをしている者は、もう盗んではいけません。むしろ、必要のある人に分け与える物を得るために、労苦して、自分自身の手で正当に働きなさい。29 腐敗した言をあなたがたの口から出すことなく、必要に応じて、建造するのに良い言だけを語り、聞く人たちに恵みを与えるようにしなさい。30 また、神の聖霊を悲しませてはいけません。この方の中で、あなたがたは証印を押されて、贖いの日へと至るのです。

エペソ4:17~24はキリストのからだの生活のための信者の日常生活の基本原則を述べており、4:25~5:21は生活の詳細について述べています。生活の詳細では、まず虚偽を語らないこと、その次に怒りを対処することが述べられています。あなたは学校生活の人間関係や両親との関係において、怒りを対処することを学んでください。聖書は、日が暮れるまで憤ったままでいてはならないと言っています。また聖書は、「すべての苦さ、憤り、激怒、わめき、ののしりを、すべての悪意と共に、あなたがたから除き去らせなさい。そして、互いに親切で情け深くあり、神がキリストにあってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい(エペソ4:31-32)」と言っています。

あなたは怒りを対処し、他人を思いやり、親切で情け深くあるために、イエスにあるあの実際から学ぶべきです。イエスの実際から学ぶために、あなたはミングリングされた霊を活用し、思いを霊に付け、霊に従って歩むべきです。怒りを対処しないと、語ることに苦みが混じっているのです。相手の怒りを買ひ、ますます状況は悪くなります。重要なことは、霊の中で実際の霊に触れ、「他人を思いやり、親切で情け深い」ことの実際を、あなたの生活の中で実際化させることです。

祈り: 「おお主イエスよ、キリストのからだの実際を表現するため、私は日常生活でイエスにあるあの実際から学び、『怒りを殺す十字架の効果』の実際と『他人を思いやり、親切で情け深い』の実際を経験させてください。そのために、私は必ず自分の霊の中で実際の霊に触れなければなりません。主イエスよ、あなたの御名を呼び、実際の霊に触れ、様々な人間関係において、イエスにあるあの実際を経験し享受させてください。私がこのことで成長できますように！」

I. 高い福音

第四課 聖書 (下)

Ⅱ テモテ 3:16 聖書はすべて、神の息吹かれたものであり、人を教え、戒め、矯正し、義の中で訓練するのに益があります。

聖書は、神の聖なる言葉である

聖書がその他のすべての本と異なる理由は、その性質が神聖であるということです。聖書は神の息吹かれたものです。これは、聖書は人の思想や人の思いから出てきたものでなく、神がその思想と言葉をその霊を通して著者の中へと、また著者から外へ息吹いたものであることを告げています。ですから聖書は神の要素を含み、神の香りを運びます。クリスチャンの最大の喜びと祝福は、彼の息である言葉を通して、日ごとに神と接触し神を味わうことができるということです。

聖書はその霊を通して人から神が言葉を息吹かれたのですから、いかなる言葉も人の意志からもたらされたものではなく、むしろ人々が聖霊にもたらされて神から語ったものです。「人々が聖霊にもたらされて神から語った」言葉は、二重の意味があります。第一に、人はその霊にもたらされたのです。第二に、人は神から語りました。古代のギリシャ語で、聖霊によってもたらされるとは、船が風によって運ばれるようなことを意味します。聖書の著者は神の靈感を受けました。ですから彼らは聖霊の力の下にあり、神の言葉を語り出すため彼にもたらされ運ばれたのです。なおまた彼らが語る時、彼らは神の内側から語りました。神の霊が人に語るようにし、人も神の内側から語りました。言い換えると、神がご自身の言葉を人の口を通して内側から語ったのです。

聖書の主要な題目：

神と彼のご計画

聖書に啓示された神は、知恵と目的を持った神です。才能があつて計画性のある人がいつもさまざまな計画で満ちているように、最も知恵のある私たちの神には、永遠のご計画があり、それは人と世界に多くのかかわりがあります。

人とその運命

聖書は人がどこから来たか、どのように造られたか、また人はどこへ行こうとしているかを告げています。それはまた、人に対する神のご計画についても告げています。

キリスト

キリストは聖書の中心です。旧約はキリストに関する預言です、そして新約はこの預言の成就です。聖書は、このキリストがどのようにして人類のために贖いと救いを達成されたかを告げています。

聖霊

聖霊は神の第三のパーソンです。彼は、人が神を経験することとの関係で、多く述べられています。

神聖な命

神聖な命は神の命であつて、人はキリストを信じる時にこれを受けます。この神聖な命はキリストを信じる者の中に生き、その生活を導き、造り変えます。

キリストにある信者

新約は、キリストにある信者の意義と正当なクリスチャン生活をする方法を私たちに告げています。

召会

召会は、今日地上にいる信者たちの共同体です。聖書は、召会とは何か、信者はどのように召会として集会すべきかを説明しています。

神の王国

神の王国は、神がこの時代と来たるべき時代に、彼の支配と権威を執行される範囲です。

新天新地

新天新地は将来の永遠において起こる事柄について語っています。

聖書を読むことによって、イエス・キリストに会う

もし私たちが真理を追い求めている人であり、人生の意義を知ろうと思うなら、聖書を読む必要があります。そして聖書の中に示されているキリストを呼び求める必要があります。神はすべての人に霊を与えられました。それは神の事柄を理解し、それを受け取るためです。私たちがこのすばらしい本、聖書を読み始めますように。新約聖書を読むことによって、この本の中でイエス・キリストにお会いし、今日、実りのある豊かな人生を始められますように。

詩歌 579 聖書を読む — 神の御言の機能

1. せい書はかみのいぶき、かみの霊にて息吹かれた；
かみ・ひと通して書かれ、かみの豊富、吸い込ませる。
2. いぶきはひかりとなり、神せいなひかりで照らす；
ひとの真のひつようと、実さいのじょうたい見せる。
3. いぶきはいのちとなり、神せいなせいしつ分与す；
死人生かし、さいせいし、更しんして、つくり変える。
4. いぶきは知恵となつて、神せいな知しきもたらす；
とわのもくてきしめし、かみのゴールへとみちびく。
5. いぶきはちからとなり、神せいなちから供きゆうす；
ちからづけ、権威あたえ、かみの御むねじょう就する。
6. いま、いぶき呼きゆうする、かみのしゆくふくきょう受す；
霊をかつ用し、呼きゆうし、かみの豊富をきょう受する。